

# (公財) コープともしびボランティア振興財団

## 2021 年度事業計画

### <基本方針>

助け合い支え合う地域社会を みんなの力で

### <課題>

1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化をはかります

### I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

#### 1. ボランティア活動助成

##### (1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべのホームページ、同機関紙「きょうどう」で行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、申請状況は下記のとおりです。

県内9会場で開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としています。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、今回の説明会については新規で申請される団体のみ参加を必須としました。

	申請 (グループ数 / 金額(円))	助成(案) (グループ数 / 金額(円))
福祉等	140 / (53) 11,266,000	131 / (49) 6,985,000
環境	20 / (4) 2,487,000	17 / (1) 1,691,000
合計	160 / (57) 13,753,000	148 / (50) 8,676,000

( ) 内数字はきりり助成数で内数

## (2) 選考について

### ①助成検討委員の構成

2021年度助成検討委員は、資料2-1のとおりです。

### ②選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の選考基準を記載し公開しています。

- ◇活動の公益性：課題把握、公益性
- ◇社会貢献度：活動の必要性、実効性、地域の理解・共感
- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

### ③選考方法

助成検討委員には、選考基準に基づいて評価いただき、その評価点を事務局で集約しました。助成検討委員会（3月1日に福祉分野、3月4日に環境分野開催）では、その結果と、2021年度の助成予算を勘案しながら討議し、助成案をまとめました。

2021年度ボランティア活動助成は、2018年度から開始した少額助成「きらり助成」（上限1.5万円の助成）と、「ともしび助成」（上限30万円の助成）の2つの枠組みで募集を行いました。「きらり助成」については、コープこうべ地区本部長による選考会で第1次選考の後、助成検討委員会で協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会で選考、助成案をまとめました。

## (3) 今年度の特徴

### ①福祉分野の申請数減

新型コロナウイルス感染症の影響により活動の中止や変更を余儀なくされ、先の見通しが立たない状況から福祉分野の申請数は前年と比較して大きく減りました。一方、活動にあまり制限を受けなかった環境分野については前年より微増となりました。継続申請を見送ったのは居場所での歌や朗読、飲食をする団体、出演ボランティアなど訪問型の活動をしている団体でした。また、新規申請数については前年の半数以下となり、福祉分野で新たな動きが止まっていることが窺えます。

### ②申請グループ数

前年と比較して約30%減り、公益移行した2012年度水準の申請数となりました。

年度	申請件数						
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
福祉	155	152	146	175 (35)	169 (51)	198 (72)	140 (53)
環境	28	36	37	26 (2)	24 (2)	19 (3)	20 (4)
合計	183	188	183	201 (37)	193 (53)	217 (75)	160 (57)

※（ ）内はきらり助成数で内数

年度	上記のうち、新規申請件数						
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
福祉	23	30	42	65	50	70	25
環境	3	9	7	5	6	3	6
合計	36	39	49	70	56	73	31

助成年度	平均申請額 福祉分野	平均申請額 環境分野	申請件数 全体	平均申請額 全体
2013	73,652	63,581	172	71,837
2014	76,681	60,133	174	73,828
2015	82,084	58,893	183	78,505
2016	91,230	88,417	188	90,691
2017	94,308	91,135	183	93,667
2018	86,197	100,692	201	88,072
2019	78,751	104,875	193	82,000
2020	78,590	96,526	217	80,161
2021	80,471	124,350	160	85,956

※2018年度から新設した「きらり助成」の新設により、平均申請金額は減少傾向にあったが  
2021年度は「きらり助成」の申請が減ったため平均申請金額は増加した。

#### (4) 2021年度助成(案)

##### 分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	36	1,444,000	16.6
		障がい者	21	837,000	9.6
		地域住民	10	444,000	5.1
		在日外国人	1	60,000	0.7
		施設・病院	1	15,000	0.2
		その他	1	10,000	0.1
		合計	70	2,810,000	32.4
②	まちづくり		8	553,000	6.4
③	文化・芸術		3	41,000	0.5
④	地域安全		0	0	0.0
⑤	防災・減災		2	234,000	2.7
⑥	多文化共生		4	402,000	4.6
⑦	子ども育成		43	2,814,000	32.4
⑧	環境		17	1,691,000	19.5
⑨	その他		1	131,000	1.5
合計			148	8,676,000	100.0

## (5) 助成決定後のサポート

### ①交流会の開催

助成グループが集う「市民活動交流会 2021」を新型コロナウイルス感染症予防対策として東西 2 会場に分けて開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行います(5月20日東会場、5月26日西会場)。また、希望により分野別交流・研修会を開催し、ネットワークづくりやステップアップの機会とします。

### ②スタッフによる相談や訪問の実施

運営や、報告用紙の書き方などの相談に個別に対応します。また、スタッフが可能な限り、助成グループを訪問し、助成グループのとらえている地域課題を共有したり、困りごとの相談に応じます。

### ③ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

## 2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

### (1) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」助成5年目

財団と志を同じくする企業から寄付金をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2019年度は6件、2020年度は7件の助成を実施しました。

2021年度は21社からの寄付総額240万円、コープこうべからの寄付760万円、昨年度の未使用分5千円を合わせ、約1,000万の予算で助成を行います。

社会的課題を解決するために活動しているグループや2021年度は新たに新型コロナウイルスの影響による困窮者を支援しているグループを対象とし、4月から募集を開始します。申請書による1次選考ののち、7月8日にプレゼンテーションによる2次選考を行います。2次選考会には、財団の運営委員や、学識者、賛同企業などに参加いただき、選考委員の皆さんで助成グループを選出・決定いただきます。

このプロジェクトで助成するグループは法人格の有無を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジするグループに門戸を広げます。

#### ●助成予算総額 1,000万円

地域課題解決分野 上限 50万円/グループ

コロナ困窮者支援分野 上限 100万円/グループ

## 3. 高校生の心豊かな育ちとボランティア人材の育成支援

### (1) 高校生がボランティア活動を通して心豊かに育ち、次代の地域の担い手になることを願い「高校生のボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の中で、若い世代のボランティア人材の養成が計画の柱の一つとして位置付けられました。これに基づき、2019年度から「高校生のボランティア顕彰」をスタートしています。2019年度は18校、2020年度は17校を顕彰しました。2021年度もさらに多くの学校の参加をめざし、募集します。

決定後には参加者による活動交流を行い、互いに認め合う場をつくります。

#### ●顕彰予算 60万円

## 4. 交流や学びの場の提供

### (1) 連携して地域課題を解決するネットワークづくり

財団の持つ中間支援組織的機能を活かし、コープこうべの地区本部と地域内で活動するボランティアグループや地域団体、社協、専門職などとの交流や学習の場をつくります。互いに連携・協働して地域の様々なくらしの課題解決に取り組む中でネットワークづくりを進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担います。

### (2) 若い世代とボランティアグループの交流を推進

高校生ボランティア顕彰高の高校生やスマホ講座で講師を務めた大学生など若い世代と財団の支援するグループとの交流を推進し、若い世代と協働して地域課題の解決に取り組むことを目指します。

### (3) 地域でのボランティアやくらしの課題の学びを支援

下記の4つの柱を基にした講座を開催するグループや団体を後援、協力します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②グループマネージメントを強化する講座
- ③ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
- ④社会的課題を考える講座

## 5. 2022年度「ボランティア活動助成」に向けて

### (1) 2022年度の「ボランティア活動助成」の考え方

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により特に福祉分野で継続申請を見送った団体が多かったこと、新規申請件数が激減したことを踏まえ、2022年度については活動の再開や新規申請を支援する枠を設けます。継続助成は財団の助成の大きな特徴であり、新型コロナウイルス感染症の影響で止められた活動を再開するための支援を積極的に行います。

### (2) 2022年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2022年度助成に向け、「ボランティア活動助成」の申請に先立ち、約9会場で説明会を行う予定です。新型コロナウイルス感染症予防対策として昨年同様、新規で申請された団体のみ参加を必須とします。説明会后、申請の受付を開始し、1月7日締切後、3月の助成検討委員会で2022年度助成案を作成します。

申請書については助成検討委員会での指摘をふまえ、運営委員会で精査し、申請団体にとっても記入しやすく、また財団の助成に対する考えが反映するような書式に改善する予定です。

## II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます

### 1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

#### (1) ともしび通信の発行

同媒体は、当財団の機関紙として、3カ月ごとに、約4,000部発行し、ホームページでも公開しています。送付先は、賛助会員、寄付者、助成グループのほか、コープ店、中間支援組織、行政、社協、企業などですが、コープ店、中間支援組織や行政へは複数枚送付して、地域の人々にも配布いただいています。

2021年度もさらに内容の充実を図り、地域に財団の活動への共感を広げます。

## **(2) ツムギスト（広報ボランティア）の活動を継続**

グループを実際に訪問し、活動の状況や、活動によって地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、物語を紡ぐボランティア（「ツムギスト」）の活動を継続します。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休止しましたが2021年度は状況を見ながらツムギストのグループ訪問を再開し、活動の現場のレポートを当財団のホームページに掲載します。

## **2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進**

- (1) コープ委員会の学習会、店舗で開催される学習会「レインボースクール」に財団についてのテーマでエントリーし、地域での学習会開催につなげます。
- (2) 広報室と連携し、計画的でタイムリーなマスコミリリースを行います。
- (3) 財団サポーター（現在64名）の登録を増やし、広報活動への参加・協力を呼びかけます。

## **Ⅲ. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります**

財団に助成を求める新規グループは増加しており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。低金利の続く中、債券運用はますます厳しい状況ですが、財団のミッションを果たすために、資金調達方法を多様化し強化します。

### **1. 資金調達の強化**

#### **(1) 2021年度 賛助会費・寄付・募金の目標**

2021年度の賛助会費・寄付・募金の総合計 16,000,000円を目標とします。

#### **(2) 法人からの寄付および法人賛助会員の募集の強化**

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、初年度賛同企業7社、寄付金額100万円からスタートしましたが、現在は21企業から総額240万円の寄付を得ています。2021年度もコープ協力会加盟会社などに、賛同企業とともに新規の法人賛助会員への呼びかけも行います。

#### **(3) 集中募金を6月と10月に実施**

毎年10月、コープこうべの地域活動推進部が窓口になり、財団への集中募金に取り組んでいただいています。2021年度は6月にも実施し、年2回の募金の呼びかけを行っていただきます。コープこうべの組合員・職員の財団への理解を深める良い機会として取り組みます。

#### **(4) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大**

2016年7月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取り組みとして定着し、2020年度は約121万円の募金になりました(2021年3月見込)。また、古本回収ボックスを設置する事業所はコープの店舗等34カ所になりました。

2021年度も、さらに寄付額の増加をめざして広報やあらたな回収ボックスの設置などを強化します。

#### **(5) 古切手、書き損じハガキの回収**

古切手、書き損じハガキの回収を呼びかけた結果、多くの切手、ハガキが集まり総額39万円の切手などに交換することができました。2021年度も同様の回収の呼びかけを実施します。

#### **(6) 先進事例の学習と検討**

外部団体などによる資金調達の成功例について、ホームページやセミナー、訪問などにより、研究を進め、当財団でも可能なものについて検討します。

#### **(7) 基本財産の運用**

今年度も運用規則にのっとり、適正に運用を検討していきます。

### **2. 財団の基盤、人材育成の強化**

#### **(1) 財団スタッフの人材育成**

第3次中期計画の実現のためには、財団のスタッフとして、ボランティアコーディネータ力、ファンドレイズ力の向上が求められています。内外の研修へ積極的に参加することで、スキルアップを図るとともに、オンラインを活用して外部団体との交流の機会を増やし、ネットワークづくりを促進します。